

小平市公共施設マネジメントニュース

令和4年1月号

「小平第十一小学校等複合施設の整備に関する基本計画（素案）」の 市民説明会を開催しました

小平第十一小学校は、1967年に建築され、建物の老朽化が進んでいることなどから、建て替えることを決め、新しい小平第十一小学校に関する基本計画の策定を進めています。

学校の建て替えでは、教育活動の充実、教育環境の向上を図るとともに、小学校へ地域学習・コミュニティ機能を複合化することにより、“小学校を地域の核”とした地域コミュニティの醸成を図っていくことを目指し、取組みを進めています。

学校や地域から寄せられたご意見を踏まえ、整備コンセプト等を整理し、令和3年5月に基本計画の骨子案を策定してから、具体的な検討を進め、令和3年12月に素案がまとまりました。素案に対する市民意見公募（パブリックコメント）手続を12月23日から1月24日まで実施する中で、基本計画に対する理解を深めて頂き、市民意見を広く募ることを目的に説明会を開催し、延べ31名のご参加を頂きました。

基本計画は、市民意見公募（パブリックコメント）手続を経て、令和4年3月までに策定する予定です。

素案の概要と、説明会の概要は、以下のとおりです。



素案の概要

■複合化する施設

(1)小平第十一小学校 (2)花小金井北公民館 (3)花小金井北地域センター (4)十一小学童クラブ第一/第二
※(2)と(3)を合わせた施設を「(仮称)十一小地区交流センター」と呼びます。

■整備コンセプト

～子どもたちが快適に学び、また多世代がつながり高め合う地域の拠点となる学校づくりをめざして～

■整備方針

(1)小平第十一小学校

①多様な学習活動に柔軟に対応できる学習環境の整備 ②安全・安心で快適な学校空間の整備
③地域を愛し、地域に愛される開かれた学校づくり

(2) (仮称)十一小地区交流センター

①新たな活動を生み出す地域コミュニティの拠点 ②様々な人々が活動しやすい施設づくり
③人々の「地域のために」という想いを大切に、地域貢献や地域還元に役立つ施設づくり

(3)十一小学童クラブ

①将来的な児童数に応じた学童クラブの設置
②子どもが安心して過ごし、様々な交流が図られる施設づくり

■複合化による相互利用について

学校の教育活動等や地域活動等の充実、児童と地域住民の交流を促進、公共施設の有効活用を図ることを目的とし、それぞれの施設の一部を地域へ開放して、相互に利用することを想定します。



素案は、公共施設マネジメント課（市役所2階）、市政資料コーナー（市役所1階）、東部・西部出張所、市ホームページでご覧になれます。

説明会の概要

【開催日等】

- ① 令和4年1月9日（日）10時00分から11時30分
場所：花小金井北公民館 ホール / 参加人数：16名
- ② 令和4年1月16日（日）10時00分から11時30分
場所：花小金井北地域センター 第一・第二集会室 / 参加人数：15名



花小金井北公民館での説明会の様子



花小金井北地域センターでの説明会の様子

【主な質疑応答等について】

①小学校に公民館等を複合化することについて、発案の意図は何か。

→（市）今後、施設の老朽化や少子高齢化、人口減少に伴う財政バランスの悪化など、公共施設を取り巻く環境が変化していくことが予想される中、施設の総量の適正化を見据えて、市では公共施設マネジメントの取組を進めています。

一方で、できるだけ機能を維持し、施設総量を縮減するためには、施設の拠点化が必要であり、一定程度の敷地面積が必要となります。学校は、施設ごとの敷地面積が大きく、かつ市内全域をカバーする配置となっているとともに、防災上の拠点となっており、市民の認知度も高いという特徴があります。小学校は、コミュニティスクール、青少年対策地区委員会、自治会における活用など、すでに地域コミュニティの拠点となっています。また、小学校は、1年生が歩いて通うことができる距離に配置されているため、高齢者でも歩いて行きやすい距離にあります。

地域対応施設では、集会室機能が約193部屋あるものの、利用率が高くない施設もあることから、拠点化を図り、小学校を中心とした複合化を進め、地域学習、コミュニティ機能を複合化する等により、小学校を地域の核とした地域コミュニティの醸成を図っていく取組を進めています。

②小学校への複合化により、これまで地域にあった公共施設が無くなることについて、地域住民に意見を聞いたか。

→（市）公共施設を取り巻く環境が変化していく中で、今ある施設を今ある場所に今と同じ規模で建て替えていくことは難しくなり、公共施設マネジメントの取組として、施設の集約化を進めていく中では、地域に公共施設が無くなることも今後想定されます。これまでも、小平第十一小学校へ複合化する公共施設の検討や方向性の説明会を行い、利用者・利用団体ヒアリング等により意見を聞いてきましたが、小学校は児童が歩いて通える距離にあるため、その点についてはご理解を頂き、小学校への複合化による新たな活動や交流、相乗効果等について、アイデアやご意見を頂きたいと考えています。今後も説明会等において丁寧に説明していき、意見を聞きながら進めていきます。

【主な質疑応答等について】

③小学校への複合化によるメリットとデメリットはあるか。スクールゾーンがある中で、公民館等が複合化されれば交通量が増え、児童の安全面においてデメリットがあると思う。

→ (市) メリットは、学校が地域交流等の拠点となることで、地域住民の力を学校支援活動にいかしやすくなり、子どもたちの学力や社会性の向上及び心豊かで健やかな成長が期待できることや、地域住民の交流や課題解決を図ることができる拠点としても位置付け、学校の機能を高めていくことができるようになること等が挙げられます。

デメリットは、公共施設の集約化により、これまで地域にあった公共施設が無くなり、人によっては距離が遠くなることが挙げられます。また、デメリットではありませんが、今後検討を進める上では、児童の安全面の確保が課題であると考えています。素案では、児童の安全面を確保するために、動線やエリアの区分に配慮すること等の他、セキュリティの考え方を示しています。スクールゾーン等に関する敷地周辺の交通については、交通管理者と協議していき、児童の安全を確保します。

④(仮称)地区交流センターとして、現在の花小金井北公民館と花小金井北地域センターを合わせた面積の約半分となるが、避難所としての機能は保たれるのか。

→ (市) 小平第十一小学校等複合施設は、児童数の規模や避難所機能の強化等により、校舎や避難所の中心となる体育館の面積が既存施設より広くなること、また、従前のおり体育館の他に教室の一部を避難所として開放することを想定しています。既存施設における避難所の指定状況等を踏まえ、関係課と調整しながら、複合施設全体で避難所機能を検討していき、必要な機能を整えていきます。

なお、市では、現時点においても、想定されている避難者全員を、避難所で受け入れることは困難であることから、在宅避難のほか、親戚や知人宅等への避難などをお願いしています。

⑤小平第十一小学校等複合施設における避難者数の想定はどのくらいか。

→ (市) 災害の種類や規模、範囲等により状況が異なるため、一律の避難者数の想定はありません。なお、令和3年11月に修正された小平市地域防災計画における想定収容人数は、十一小が829人(体育館のみ177人)、花小金井北公民館が76人、花小金井北地域センターが125人です。関係課と調整しながら、収容できる人数の確保に努めるほか、あらかじめ避難所等で使用する備蓄品を保管するなど、円滑な避難所の開設に向けて複合施設全体で検討していきます。

⑥東部地域は住宅が増え、緑が減ってきているので、新しい十一小は緑いっぱいにしてほしい。

→ (市) 法令の緑化もありますが、学校や地域からの意見を踏まえて、自然とのふれあい施設として、学級農園や植物の観察スペースなどの環境を整備するとし、素案をまとめました。

⑦仮設校舎を造り、現在地に校舎を建てるのか。配置計画を教えてください。

→ (市) 仮設校舎の要否は、今後の配置計画によるところが大きいです。本基本計画を踏まえ、令和4年度に基本設計方針を策定する予定であり、その検討の中で配置計画が決まります。

⑧花小金井北地域センターはいつまで使えるのか。

→ (市) 素案では、新しい施設の供用開始が令和11年度以降となっています。新しい施設に機能が移転するまでは、既存の施設は使えるようにし、活動が途切れないよう配慮します。



【お問合せ】 小平市 企画政策部 公共施設マネジメント課

〒187-8701 小平市小川町2-1333 TEL 042-346-9557

FAX 042-346-9513 メールアドレス facility-mg@city.kodaira.lg.jp